

病害虫発生予察指導情報 (サツマイモ基腐病)

令和4年5月19日
鳥取県病害虫防除所

1 情報の内容

5月16日、県内現地採苗ほ場において、サツマイモ基腐病の発生が確認されています。採苗では健全な苗を選別するようにしましょう。また、生育時は地上部の様子を適宜観察し、早期発見と対策の徹底に心がけましょう。

2 情報の根拠

- (1) 5月16日、本病発生が疑われるサツマイモ苗が持ち込まれ、遺伝子検査の結果、サツマイモ基腐病であると同定されました。
- (2) 本病は、発病適温が27.5～30.0℃付近（発育温度15～35℃）で、生育不良や萎れ、黄変、赤変した株の地際部付近が暗褐色～黒色となる（写真1）。塊茎はなり首から腐敗しており、腐敗部分はやや硬い。病変部に柄子殻は多数形成され、そこからおびただしい数の胞子が漏出され、これらは次作への伝染源となる。ほ場の排水性が悪く、降雨量が多いと発生が助長される傾向にある。



写真1 サツマイモ基腐病

左：塊茎の腐敗 中央：地際部の黒変 右：罹病茎に形成された柄子殻

3 防除上注意すべき事項

<採苗>

- (1) 採苗時に使用するハサミはこまめに消毒（火炎殺菌または丁寧な水洗とふき取り）を行いましょう。
- (2) 採苗は、株の地際から5cm以上切り上げて行いましょう。採苗位置を上げることで発病リスクを低下させることができます。
- (3) 苗は、無病健全な苗を選別し、必ず採苗当日に薬剤で苗消毒しましょう。薬剤は必ず採苗当日に調整したものを用いましょう（表1）。
- (4) 苗床に本病が発生した場合は、症状のある株は種イモごと速やかにハウス外に持ち出し、適切に処分しましょう。

<本ぼ>

- (1) 排水不良などのほ場では、植付前に耕盤破碎（地下排水の促進）や明渠施工（表面排水の促進）など、排水対策を行いましょう。

- (2) 発病株は見つけ次第持ち出して、その周囲の株に登録薬剤を散布しましょう。苗消毒による感染防止効果が低下する定植5週目程度を目安に、予防・殺菌効果がある薬剤を散布する。散布の際は、株元や茎に薬液が十分付着するように行いましょう。
- (3) 発病して株を持ち出した部分への補植は、再発する可能性が高いため、控えましょう。

表1 サツマイモ基腐病に対する苗消毒の登録農薬 (2022年5月17日現在)

薬剤名	希釈倍率	使用回数	使用時期	使用方法
ベンレート水和剤	500~1,000倍	1回	植付前	30分間苗基部浸漬
ベンレートT水和剤20	200倍	1回	植付前	30分間さし苗基部浸漬

4 その他

本病に対する詳細な防除対策は、以下に示すマニュアルおよび動画を参照すること。

サツマイモ基腐病の発生生態と防除対策

(農研機構、令和3年度版)

https://www.naro.go.jp/publicity_report/publication/pamphlet/tech-pamph/151859.html



図1 サツマイモ基腐病の発生生態と防除対策
マニュアル専用二次元バーコード

サツマイモ基腐病の防除対策について (農研機構、動画、YouTube)

https://www.naro.go.jp/laboratory/karc/contents/hatasaku_area/folder15976/index.html



図2 サツマイモ基腐病の防除対策 (動画、YouTube) 専用二次元バーコード